

* * * 編 集 後 記 * * *

お待たせいたしました。やっと11号をお届けすることができました。発行が遅れ全く申し訳ありません。特に早くから原稿をお寄せ頂いた方には、大変ご迷惑をおかけしました。編集担当者としてお詫び申し上げます。特に今回は”てんとうむし”復刊号として多くの会員の皆様に玉稿をいただき心から感謝しております。10号を出したのは10年前の1987年。その間、”姫昆サロンニュース”や”遊蟲千年”で何とか情報交換や連絡網としてつないでまいりました。しかし、充分とはいえず会誌の発行は必要であるとの認識でした。しかし、世話人の怠慢も隠せません。ご容赦の程を。少しばかりの言い訳を許していただけるなら、世話をしていたメンバーが体調を崩したり、仕事を変わったり、また役職についたりする年代となり、極めて多忙となってきたからです。そのうえ年齢からか今いち体力も落ちてきているため、「昆虫」ばかりに頭が浮かべられなかったのも本当です。また、姫昆結成からの古い会員の方も精力的に頑張っておられる人もほとんどおられないのが現状です。10年一昔とか言いますが、休刊している間に環境庁や兵庫県からはレッドデータブックなどが発行され、時代に取り残されそうで全く最近では5年くらいでサイクルしているようです。この10年間のブランクを取り戻すように新生”てんとうむし”では原稿は県内に限るという了見の狭いことを考えず、県内外の会員が幅広く昆虫に関する研究の成果を発表できるよう考えています。いまや原稿不足は、各同好会誌の編集担当者の慢性的な悩みとなっております。他誌の中味をみると、投稿している会員さんは特定の方が大半を占めているようですが、何とか姫昆の”てんとうむし”は多くの会員さんの投稿により面目が保てたと思います。とくに11号からは2段組のワープロを高島氏にお願いし、一度ワープロ打ちをしていたものまで編集し直したり、ご苦勞をかけ本当に助かりました。

しかし姫昆を盛り上げて維持していくのは、会員一人ひとりの力だと編集者は思います。そして県内の昆虫相解明という目的を会員同志の親睦をはかりながら、地方の特殊性を生かした同好会として「昆虫」につき合っていきたいと思います。

いずれ編集者も仕事の関係や体力の関係から同好会活動から身を引く時期が来るかもしれません。それまでは何とか同好会を潰さないよう頑張りたいと思っております。ご協力の程をお願い申し上げます。

(K. A.)

てんとうむし 11号

発行 / 姫路昆虫同好会
発行日 / 1997. V. 20
編集者 / 相坂耕作・高島 昭
事務局 / 〒671-11
姫路市

相坂耕作方

TEL/FAX 0792-36-